

Let's 農業

第 32 号



国営土地改良事業地区における営農改善の取組

土地改良事業が行われた地区では、生産基盤条件の改善に伴い、作物の収量増や品質向上が見込まれます。しかし、事業によりもたらされる効果が、農家の皆さんの所得向上による経営の安定、ひいては地域の発展につながっていくためには、どのような農作物を生産するかといった営農改善の取組が非常に重要です。そこで、国営土地改良事業地区で行われている営農改善の課題や取組の事例について紹介します。

<北総中央地区の概要>

本地区は、千葉県北部に広がる北総台地にあって、八街市ほか6市にまたがる3,267haの地域であり、首都圏に近接した農産物の供給基地として県下でも有数の畑作を主体とした農業地域です。

本地区は、主に地下水や台地からの浸出水を利用していますが、天水のみに依存している地域もあり、不安定な農業経営を余儀なくされています。

このため、国営かんがい排水事業により利根川河口堰及び霞ヶ浦開発に水源を求めた北総東部用水事業の幹線水路から、地区内に導配水する施設を新設し、関連事業と併せて末端用水路を整備することにより、安定的な用水補給と地下水からの水源転換を行い、農業用水の安定供給と農業経営の安定化を図っています。



北総東部用水取水口



返田揚水機場



調圧水槽(2号取水口地点)



富里揚水機場と調整池
ポリエチレン製遮光フロート(300mm × 60mm,六角形)を
貯水槽水面積の約40%に設置し、アオコの発生を抑制

河川水の富栄養化によるアオコの異常発生を抑制するため、富里揚水機場において、試験的に遮光フロートを設置しています。

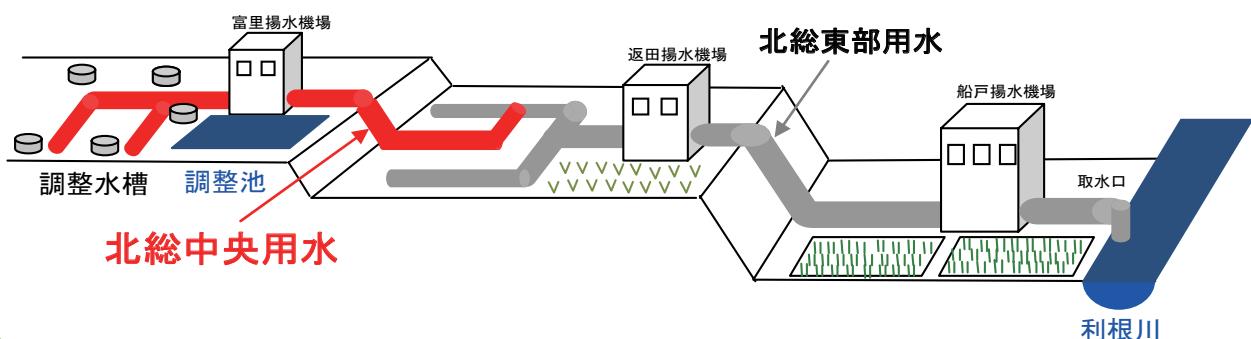
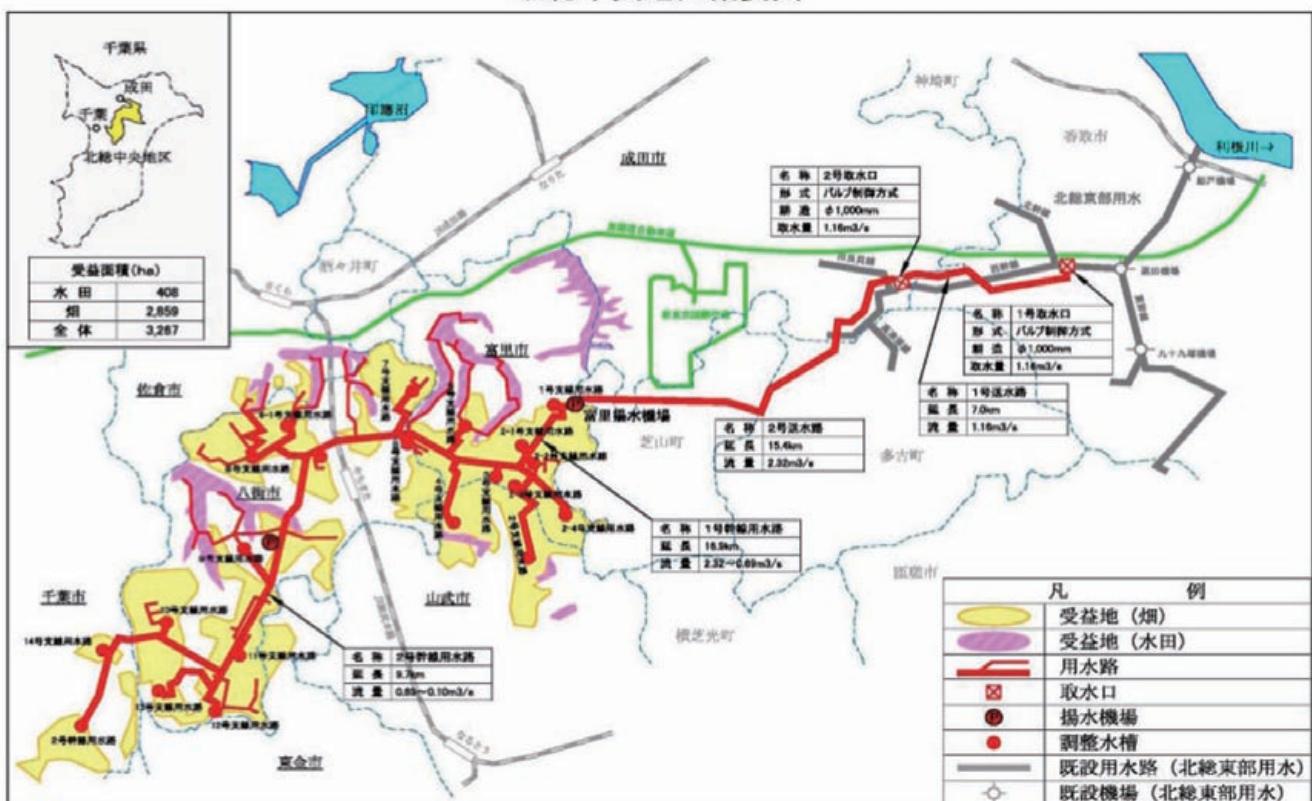
また、調整水槽において、屋根を設置しています。

さらに、加圧ポンプには除塵施設を設置し給水管の目詰まりを防止しています。



14号調整水槽の水を
使った営農実証ほ場

北総中央地区概要図



<北総中央用水地域営農対策に係る指導推進体制>

北総中央用水土地改良事業推進協議会

営農対策部会

(役割)

- 1 営農対策についての調査研究に関すること
- 2 営農対策についての関係機関との連絡調整に関すること
- 3 その他目的遂行に必要な事項に関すること

千葉県

農業事務所 企画振興課、改良普及課、
調査課、指導管理課、基盤整備課
農業総合研究センター 北総園芸研究所、
病害虫防疫課

関係市

関係課
農業協同組合 関係部課
関東農政局北総中央農業水利事業所
北総中央用水土地改良区

※北総中央地区の営農指導推進は、北総中央用水土地改良事業推進協議会営農対策部会を中心とした活動の他、本地区に利根川を主水源とし北総台地に広がる、成田用水(3,327ha)、北総東部用水(4,272ha)、東総用水(2,804ha)を加えた「北総四大用水地域営農対策協議会」により営農指導推進活動が展開されている。

<営農上の課題及び取組>

○ 畑地かんがい施設を利用した栽培技術の確立・定着

本地区では、地下水・天水頼りなどの不安定な水源確保を余儀なくされていたことから、比較的水を使わない落花生、すいかなどが作られてきました。

このため、営農対策部会は食と地域の交流促進対策交付金事業(H23～)により、北総中央用水かんがい設備を整備した経営実証ほ場を利用して、経営実証PR等を実施しています。

また、部会は「ザツツ畠かん」というPR誌を発行し、畠地かんがい施設を利用した栽培技術が定着するよう啓発をしています。



落花生の収穫

<営農改善展示ほの設置>

営農対策部会は千葉、印旛、山武の各農業事務所管内に改良普及課の協力を得て営農改善展示ほを設置しています。

ほうれんそう、にんじん、トマト、ブロッコリー等安定的なかんがい用水の供給が必要な品目を中心に雑草・病害虫、栽培体系、栽培環境等の実証を行い、新規作物の導入や品質の高い農産物の生産、新たな営農体系の確立等による産地振興への取組を支援しています。

最近の展示ほ等設置状況

- H19～21 しょうが、ほうれんそう(チューブかん水)
すいか、トマト(ハウス チューブかん水)
H20～21 いちご(ハウス チューブかん水)
ほうれんそう(ハウス ミストかん水)
H21～22 さといも、しょうが(チューブかん水、レインガン)
H23～24 現地研修会、経営実証PR等を通じて既存作物の周年化、経営の安定、畠地かんがい利用促進を図る。

○ 実証ほの農家の皆さんとの声

- ・平成22年の干ばつ・高温時に大変助かりました。
- ・にんじんの発芽率が良く、適期発芽が可能なため、価格の良い時期に収穫が可能となりました。
- ・干ばつ時でもかん水が続けられたので、サトイモが最後まで収穫出来ました。



しょうが(富里市)



トマト(富里市)



いちご(千葉市)



ねぎ(八街市)



八街市沖土地改良区



受益農家ほ場(香取市)



船戸揚水機場

<畠地かんがい現地研修会の実施>

今後の畠地かんがい施設を利用した営農技術の向上を図るため、現地研修会を毎年実施しています。

○ 平成24年度の研修先

① 八街市沖土地改良区

- ・平成23年から約60haの畠でかんがいを開始した地区です。
- ・用水が使える畠は借り手もあり、後継者・相続対策としても推進出来ます。
- ・農家の皆様からは水量、水圧面で末端まで安定利用が出来、井戸水利用時に比べ特にサトイモの出来が良くなつたという意見を頂きました。

② 北総東部用水香取市受益農家

- ・北総東部用水を30年利用しています。
- ・畠地かんがい施設を利用する以前はかんしょ、麦で1ha栽培していましたが、現在はニラ、にんじん、ほうれんそうで10haに規模拡大しました。
- ・畠地かんがい施設整備により、ニラ栽培の夏季の計画的な栽培管理が可能となり、周年栽培体系の確立と収量の安定向上が図られました。
- ・土壤消毒は太陽熱・石灰窒素法を導入し、畠地かんがい用水を効果的に利用して減農薬に取組んでいます。

③ 船戸揚水機場

- ・北総東部用水、北総中央用水を利根川から取水し両用水地区に送水している揚水機場で水管理機構が管理しています。
- ・貯水槽に遮光フロートを設置することにより、アオコの発生を抑えて、水質も年々向上しています。

<ウォータースタンドの設置>

受益農家の皆様に用水を試験的に御利用頂くため、当面の間無料でウォータースタンドを設置しています。

現在富里市4カ所、八街市3カ所、千葉市、山武市各1カ所、計9カ所で利用できます。

7～9月の使用実績は、平成22年2,932m³、23年1,203 m³、24年2,031 m³で、平成22年の厳しい干ばつや平成24年の小雨時に有効に活用頂きました。



環境保全型農業の取組

農業の持続的発展と国土・自然環境の保全、水源のかん養といった多面的機能の發揮を図るために、意欲ある農業者が農業を継続できる環境を整え、農業が本来有する自然循環機能を維持・増進することが必要です。

このため、国と地方公共団体は地球温暖化防止や生物多様性保全に貢献する環境保全型農業に取り組む農業者等に対する支援を行う「環境保全型農業直接支援対策」を実施しているところです。

その中で地球温暖化防止を目的とした農地土壤への炭素貯留効果の高い営農活動の事例について紹介します。

協議会の概要

【睦沢町自然管理協議会】(千葉県長生郡睦沢町)

・取組面積 約1,000ha	・農家戸数 670戸
(うちエコファーマー 200.3ha)	(うちエコファーマー 135戸)
(うち県認証 79.37ha)	(うち県認証 72戸)
※県認証である千葉エコ農産物の活用。	



睦沢町

推進体制

睦沢町バイオマス利活用推進協議会

バイオマстаун構想の樹立
有機資源のバイオマス化と循環システム構築
睦沢町土づくりの推進・啓発、
耕畜連携推進、地域の振興等

農産物生産振興

いちご、特産野菜、イチジク、梨、水稻等たい肥利用の技術確立

たい肥・液肥
有機資材
(わら、もみ殻、選定枝)

ふるさと推進協議会の活動強化

地域遊休地・荒廃地解消

新しい町づくりワークショップの展開

かずさ有機センター

高品質たい肥・液肥生産
たい肥等の散布受託
各種有機資源の受入
エネルギー化

利用グループ組織化

技術支援

畜産グループ組織強化

就農支援農場の設置



たい肥散布の様子



かずさ有機センターで生産されるたい肥

取組経緯・取組内容

環境保全型農業の取組を始めた経緯(歴史)

- 平成17年…牛ふんともみ殻を使用したたい肥センター「かずさ有機センター」を一宮町と共同で導入し、資源循環型農業に取り組む。
- 平成19年…たい肥センターを核とした町のバイオマстаウン構想の後押しもあり、農地・水・環境保全向上対策を活用し営農支援交付金を肥料代に充て、環境保全型農業の拡大を推進。

取組内容

- 地域の取組…収穫された特別栽培米は「むつざわ米」として販売され、地域のブランド化、活性化に貢献。
- 工夫している農業技術…たい肥の連年施用による窒素過多対策として、土壤診断、ほ場巡回による施肥の適正化に取り組み、稲の倒伏を防止。

経営・販売状況

- 都市農村交流施設「道の駅むつざわ」を販売チャネルとし、野菜、果物等他の農産物も販売することにより、収入の向上を図る。
- むつざわ米の食味コンクールの結果を見たバイヤーが訪れ、個人で大手百貨店に出店する機会があった。継続的に販売出来る場が必要。
- 農協の広域化により特別栽培米買取価格は一般の米と同額に下げられた。積極的な売込みにより、更なる販路の拡大が望まれる。

地域社会への貢献

- 都市農村交流施設「道の駅むつざわ」の営業による就労機会の提供。
- 都内と地元の小学校が合同で「むつざわ米」の田植え・稻刈りを実施しており、食育活動を通じて、子どもたちが地域循環型農業への興味を深めることにより、地域住民への理解が進行。

今後の展望

- 農地・水、環境直払等の国の事業や町単事業を活用したたい肥の生産・流通の継続。
たい肥を利用した米を中心とする農産物の有利販売。



たい肥センターを核とした町のバイオマстаウン構想の拡充を推進。



取組ほ場の様子



特別栽培米 むつざわ米

最近伸びているミニ野菜「カボチャ」

核家族化に伴う家庭の必要食材料の減少や、保存の手間・廃棄の無駄をなくしたい消費者の要望に応える形で、一度で使い切れるミニ野菜の人気が高まっています。

カボチャは、日本カボチャ、西洋カボチャ、ペポカボチャに大別されます。日本カボチャは中米原産でデンプン質が少なく煮物向き、西洋カボチャは中南米原産でデンプン質が多いため甘みも強く様々な料理に、ペポカボチャは北中米原産で他の食材と加熱調理することが一般的です。

コリンキー

西洋カボチャ。開花後15日前後、果重500～1,000gの未熟果を利用。「サラダカボチャ」とも呼ばれ、サラダや漬け物など和・洋・中どの料理でも使える。果皮は鮮やかなレモン色で、果形は短紡錘形。食感は歯触りがよく、味に癖がない。神奈川県、山形県をはじめ全国で作られている。(写真提供:サカタのタネ)



プッティーニ

ペポカボチャと西洋カボチャの種間雑種。開花後35～40日で完熟、果重は200～300g。電子レンジで約5分加熱するだけで食べられ、粉質になり甘みがある。果皮は黄橙色の地にオレンジ色の縦縞が入る。神奈川県をはじめ全国で作られている。装飾用にも適する。(写真提供:サカタのタネ)



坊ちゃん

日本カボチャと西洋カボチャの種間雑種。開花後40～45日で完熟、果重は400～600g。強粉質で甘く、カロチンが多い。果皮は黒緑色で果柄部がくぼむ。愛知県、徳島県、北海道をはじめ全国で作られている。電子レンジで5～8分加熱するだけで食べられ、器としても利用可能。(写真提供:みかど協和)



編集後記

今年の冬の寒波や春の低温と乾燥により、関東地方にも農作物への被害が発生しました。

今回御紹介した北総中央地区では、試験的にウォータースタンドを設置し、受益農家の皆様に御活用頂いています。

特に干ばつ・小雨時にサトイモや野菜など安定給水が必要な品目には欠かせないそうです。

基盤整備による営農の安定化が、食料生産を支えています。

編集発行

関東農政局国営土地改良事業地区
営農対策委員会事務局
農村計画部資源課

〒330-9722
埼玉県さいたま市中央区新都心2-1
さいたま新都心合同庁舎2号館
TEL 048-740-0516(ダイヤルイン)